夢 通信

平成26年 7月号
夢をつなぐ　心をつなぐ　世界をむすぶ
きぬがわ せいさ こうぎょう
衣川製鎖工業株式会社

『青色顔料』

昔から空の青や水の青、自然に存在する花や鳥などの青い色を表現するのに絵師達は大きな努力を払いました。自然界にある青色の顔料は藍銅鉱（アズライト）ラピスラズリなどですが、青色を抽出するのが難しく、高価な色でした。まず、藍銅鉱の青色（紺青）について。

「紺青　和名に所謂金青なり（中略）紺青はむかし中華より来たりて、本朝に有事なし。慶長年中摂州多田の銀山の中にて始めて紺青有之、これを掘り出せると也、此山はそのかみ狩野山楽にたまふ所の採地なり、この故に山楽これをほってこれを太閤豊公に奉る、仍て朱印を山楽に給へり、自今以後これをふるい出すべしと也、是より今に至りて、これをふるいほりてやまず。かつて緑青は紺青の中より選び出してこれをとる、此の二色の具は多田山の産物として尽きる事なし」。

藍銅鉱

本全書は「狩野家累世所用画法」であり、山水、人物、花鳥、壁障等と分類された画法や個々の絵の具の調整等全般について、具体的に詳細にかかれている。当時の画法を知る上で貴重な資料である、本資料の紺青の項に多田銀銅山に関する上記の記述がある。　「古今和漢万宝全書」元禄６年(1693)

二番目はラピスラズリ、産地が限られていて、現在のアフガニスタンに産する。海路で運ばれたため「海を越えてくる青」という意味のウルトラマリンの名称で呼ばれた。原石が貴重であったことと、原石を顔料にする技術が複雑であったために最も高価な顔料となり、金と同等かそれ以上の価値があった。フェルメール「真珠の耳飾の少女」のターバンに見られる青は、ラピスラズリより得られた天然ウルトラマリンブルーです。

ラピスラズリ

ラピスラズリは和名では「青金石」「瑠璃」などと呼びますが、ウルトラマリン色は「群青」と訳すことが多い。そのため、日本の絵画に使用された群青をラピスラズリと勘違いされることもある。日本画で使用される「岩群青」は前記の藍銅鉱です。正倉院にはラピスラズリをはめ込んだベルトがあります。

真珠の耳飾りの少女

最後に人工の青、プルシアンブルーは、1704年にドイツで初めて合成されたもので、歴史的には初めて人工的に合成された無機顔料として有名です。プルシアンブルーは鉄を原料とするため、アイアンブルーの呼び名もあります。日本では、江戸時代の浮世絵に使用され、北斎の冨嶽三十六景　凱風快晴（がいふうかいせい）にも使われています。俗に「赤富士」と呼ばれて親しまれている絵です。

北斎の赤富士

参考資料

多田銀銅山の紺青および緑青について　鶴田　栄一　1999年
神戸市立博物館　特別展 西洋の青－プルシアンブルーをめぐって－

読み
藍銅鉱：らんどうこう、紺青：こんじょう、金青：こんじょう、
青金石：せいきんせき、瑠璃：るり

『鉄のふしぎ博物館』
来て！見て！ふれて！　ふしぎ体感
鉄を見る目がかわりますよ。
ぜひお越しください。

URL　http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/
http://www.kanamonoya.co.jp/auto/
http://www.kanamonoya.co.jp/catena/
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®

何でもお気軽にお尋ねください！！